

## 第2章 教育を取り巻く環境

### 1. 教育を取り巻く社会的な環境の変化

#### (1) 少子高齢化

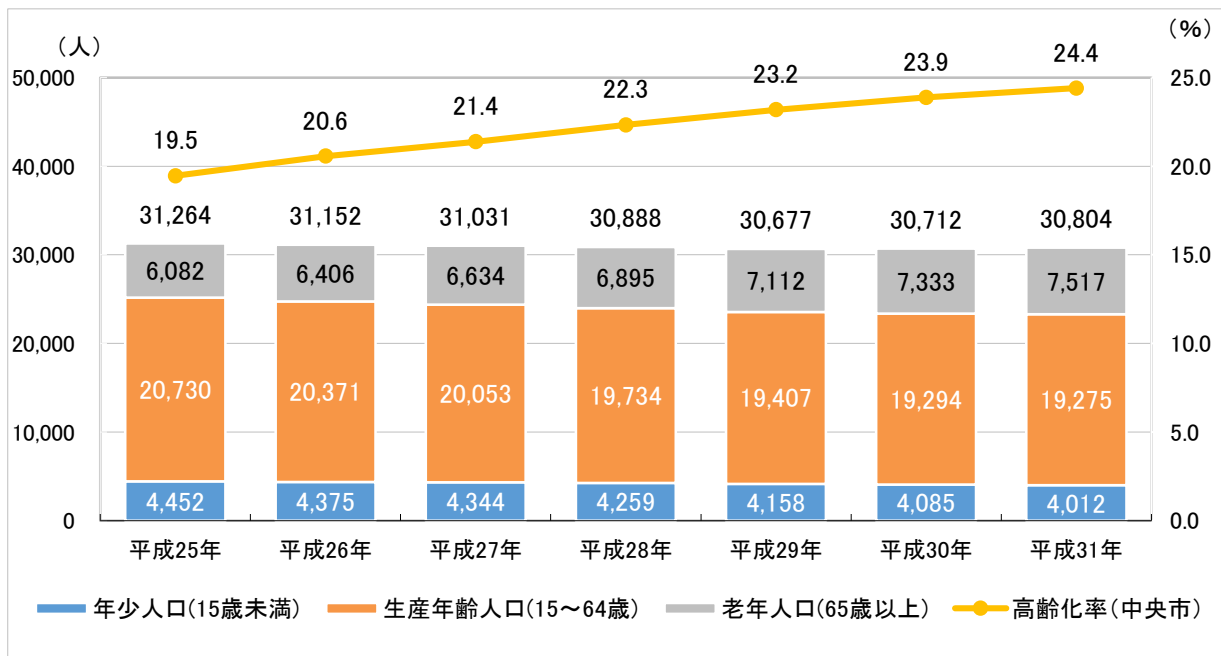
日本の人口は平成20年をピークとして急激な減少傾向にあり、令和22年には20代・30代の人口が現在の約7割に減少するほか、65歳以上の人口が総人口の3割を超える高齢化社会が予想されています。

本市の人口は、平成25年からほぼ横ばいの状態にあります。年齢3区分人口では、老年人口が増加し、生産年齢人口と年少人口が減少しています。また、高齢化率は県内の市では最も低くなっていますが、年々右肩上がりに上昇しています。

このように、少子高齢化や人口減少が進む社会においては、社会の変化に対応した学習機会や学びを生かせる場の創設が期待され、その重要性も高まっていくと考えられます。

健康で生き生きとした活動的な市民が増えることで、地域コミュニティの維持と活性化も期待されます。

■中央市の人口（年齢3区分人口）



出典: 住民基本台帳(各年3月31日現在)

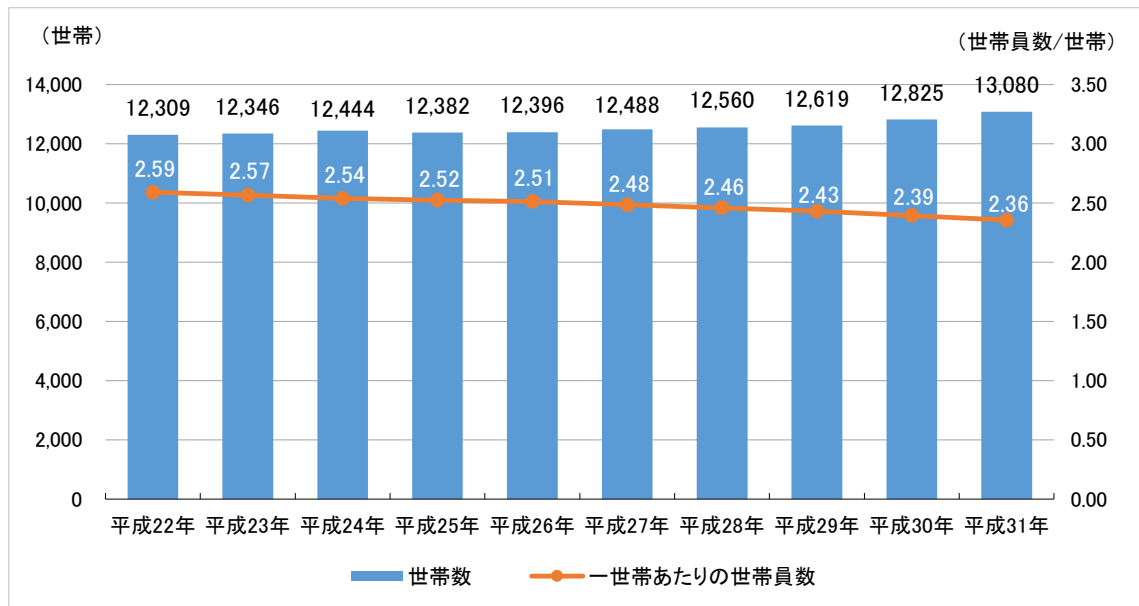
## (2) 核家族化

全ての教育の出発点は家庭教育にあると言われてますが、家庭を取り巻く社会環境が大きく変化し、子どもたちの実体験の不足や規範意識の低下、基本的な生活習慣が十分に身に付いていないなどの問題が見えてきています。また核家族化や少子化の進行により、保護者が身近な人から子育てを学ぶ機会が減少しており、子育てについての悩みや不安を抱えている保護者が増えています。

本市の世帯数は増加傾向にあり、平成22年の12,309世帯から平成31年には13,080世帯と771世帯増加しています。一方、一世帯あたりの人員は、平成22年の2.59人から平成31年には2.36人と減少傾向にあります。

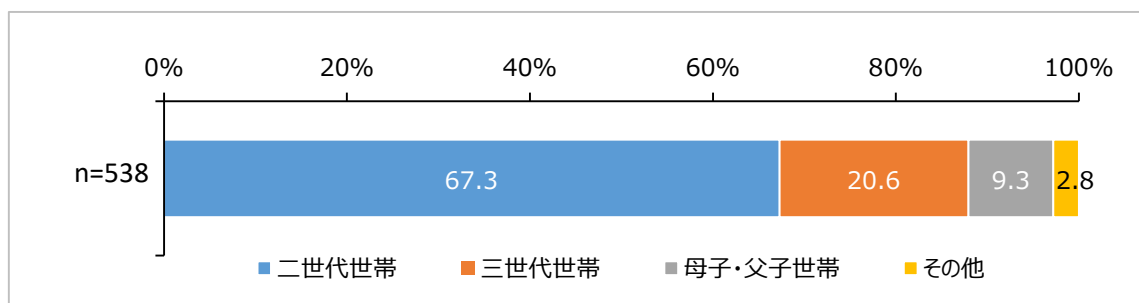
また、今回の計画策定にあたって実施したアンケートによると（詳細は第4章参照）、市内小学5年生、中学2年生の家族構成の現状は、約7割が二世帯世帯、約1割が母子・父子世帯となっています。

### ■ 中央市の世帯数と一世帯あたり世帯員数



出典: 住民基本台帳(各年3月31日現在)

### ■ 中央市の家族構成別児童の割合 (市内小学5年生、中学2年生)



出典: 中央市の教育に関するアンケート(令和元年9月)

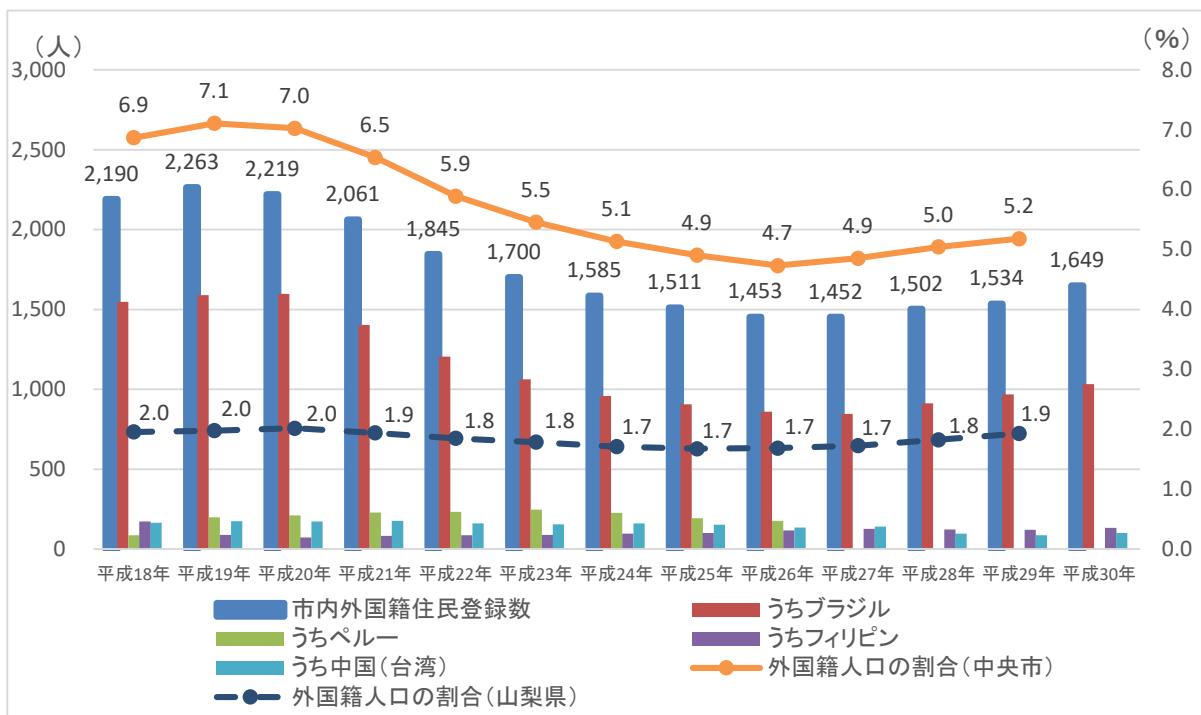
### (3) グローバル化

グローバル化の進展により、日本経済は世界規模の競争の激化、生産拠点の海外へのシフトや国内事業所の再編・統合といった様々な変化に直面しています。また、経済以外でも各国の相互依存関係が深まる中で、貧困や紛争、環境問題、エネルギー資源問題等、地球規模の人類共通の課題も増大しており、グローバルな視点を身につけることの重要性が増しています。

その一方で、グローバルな視点だけではなく、自分の住む地域の自然や文化、伝統を知り、誇りと愛着を持ち、地域づくりに積極的に参画する姿勢や態度も身につけていく必要があります。

本市の外国籍住民の人口は、平成 19 年の 2,263 人をピークに減少していましたが、近年再び増加しており、平成 30 年には 1,649 人となっています。県内市町村のなかでは甲府市に次いで 2 番目に多く、ブラジル国籍の方が全体の約 6 割を占め最も多い状況にあります。

#### ■ 中央市内の外国籍住民



出典：在留外国人統計(各年 12 月)

割合の母数人口は人口動態調査(各年 10 月)

※平成 27 年度以降のペルー国籍の外国人についてはデータなし

#### (4) 子どもの社会的環境の多様化

##### ①子どもの貧困への対応

近年、子どもたちの将来がその生まれ育った家庭の事情などに左右され、自らの夢や希望に向かって生きる権利を手放さざるを得ない子どもが少なくない状況にあります。

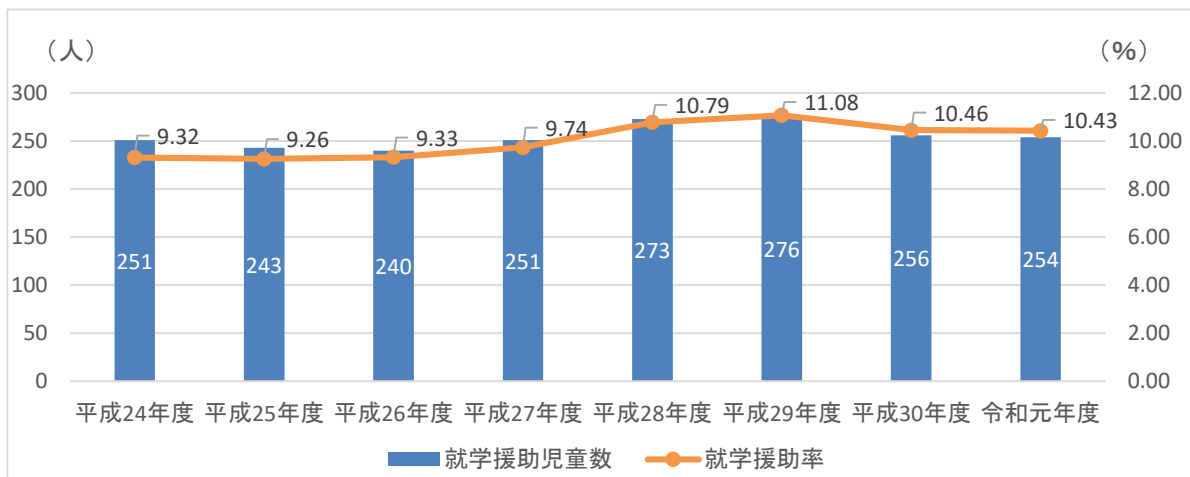
学校教育法第 19 条において「経済的理由によって、就学困難と認められる学齢児童生徒の保護者に対しては、市町村は必要な援助を与えなければならない。」とされており、「要保護者※1」と「準要保護者※2」を対象に就学援助を行っています。

本市の要保護・準要保護児童生徒数は令和元年度 254 人となっており、近年横ばい傾向にあります。就学援助率は県平均をやや上回っている状況です。

※1 生活保護法第 6 条第 2 項に規定する要保護者

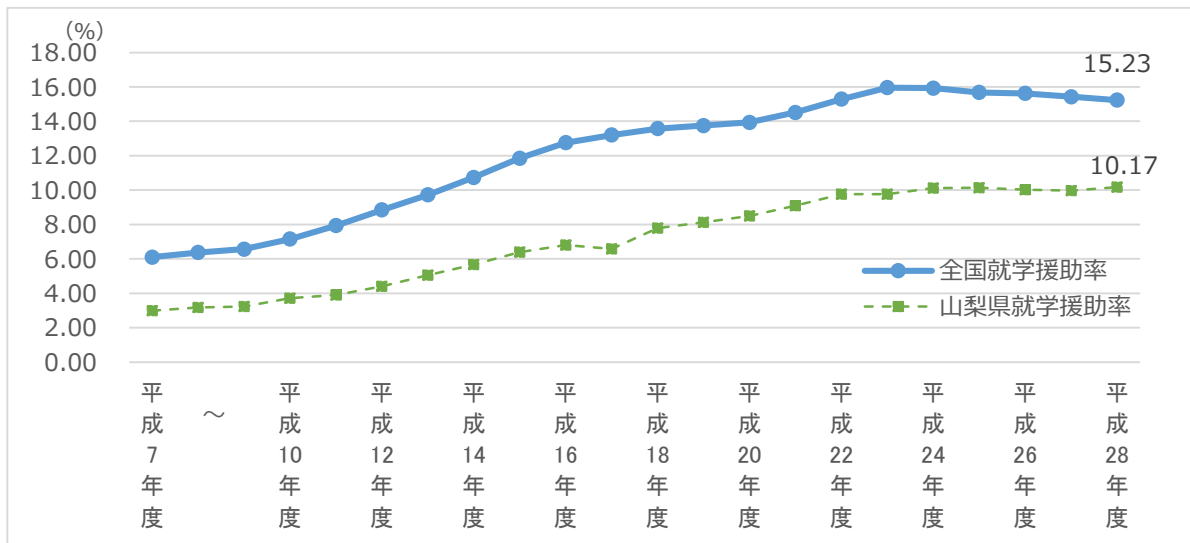
※2 市町村教育委員会が生活保護法第 6 条第 2 項に規定する要保護者に準する程度に困窮していると認める者（認定基準は各市町村が規定）

##### ■中央市の就学援助児童生徒数と就学援助率（小中全体）



出典：中央市教育委員会教育総務課（平成 24～30 年度は 3 月末現在、令和元年度は 9 月末現在）

##### ■山梨県と全国の就学援助率



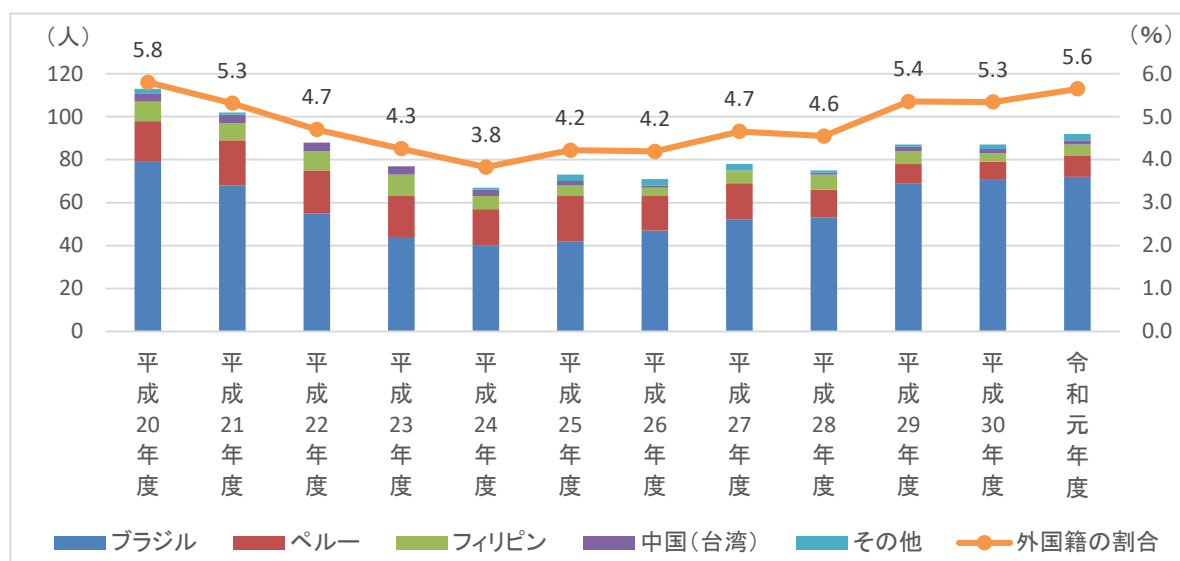
出典：文部科学省初等中等局児童生徒課（各年度 7 月 1 日現在）

## ②外国籍児童生徒数の増加

外国籍の子どもや、両親のいずれかが外国籍であるなど、外国につながりをもつ子どもは増加傾向にあり、その母語や日本語の能力も多様化している状況にあります。こうした子どもたちが、一人ひとりの日本語の能力に応じた指導を受け、学習や生活の基礎を身につけるための支援を受ける必要性が増しています。

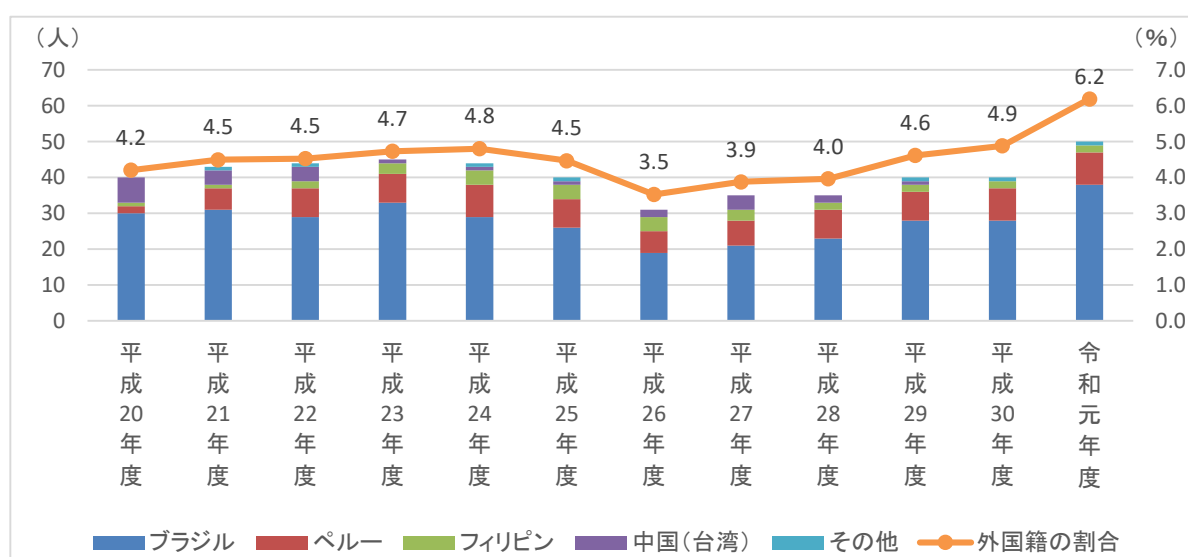
本市における外国籍の児童生徒数はここ数年増加傾向にあり、中学校では令和元年度は平成20年度以降最も多くなっています。国籍はブラジルやペルーなど南米の子どもが多く在籍しています。

### ■外国籍児童の割合（小学校）



出典：中央市教育委員会教育総務課

### ■外国籍生徒の割合（中学校）



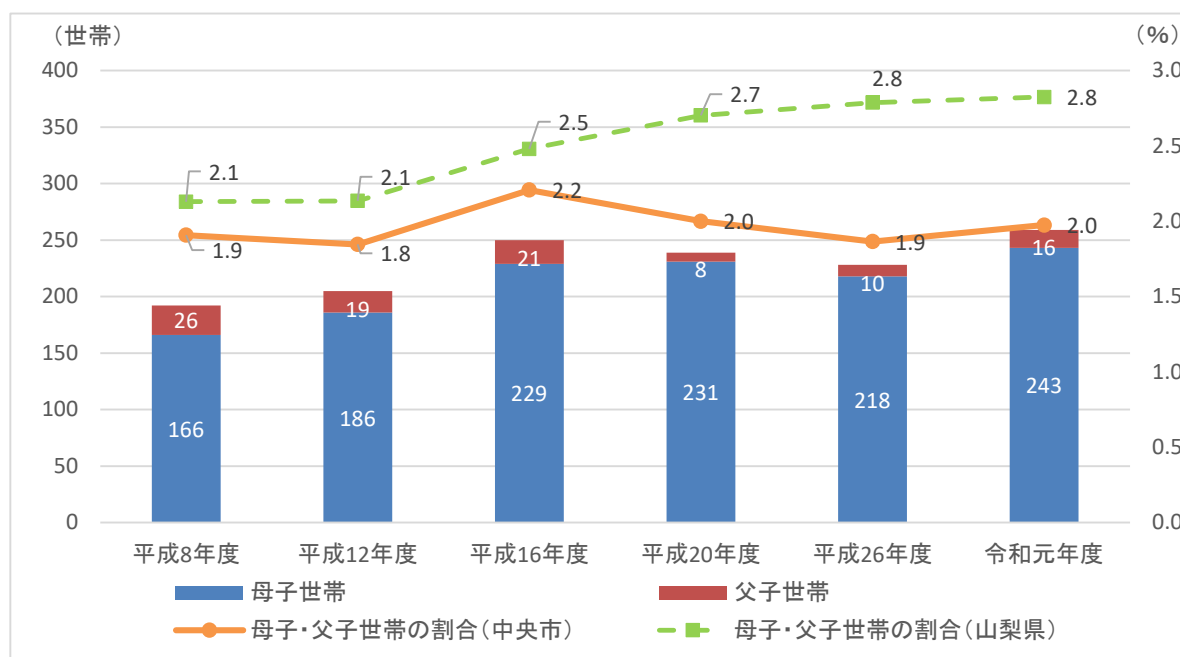
出典：中央市教育委員会教育総務課

### ③ひとり親世帯の増加

ひとり親世帯の子どもは、精神面や経済面で不安定な状況におかれることにより、学習意欲が低下したり、進学をあきらめざるを得なくなったりする懸念があります。

本市におけるひとり親世帯数は、令和元年度は平成8年度以降最も多くなりましたが、全世帯に占める割合はほぼ一定で2%前後で推移しています。ひとり親世帯の内訳をみると平成12年度以降、母子世帯が9割を超え、父子世帯が1割未満となっています。

#### ■中央市の母子世帯、父子世帯数と割合



出典：ひとり親世帯等実態調査(山梨県)

## (5) 人生 100 年時代の生涯教育・生涯スポーツ

医学の進歩、生活水準の向上等により平均寿命は著しく伸長し、人生 100 年時代の到来が予測されています。今後、生涯にわたり自ら学習し自己の能力を高めながら複数の仕事をこなしたり、その知識や技能を地域や社会の課題解決のための活動につなげていく必要性が一層高まっていくと考えられます。

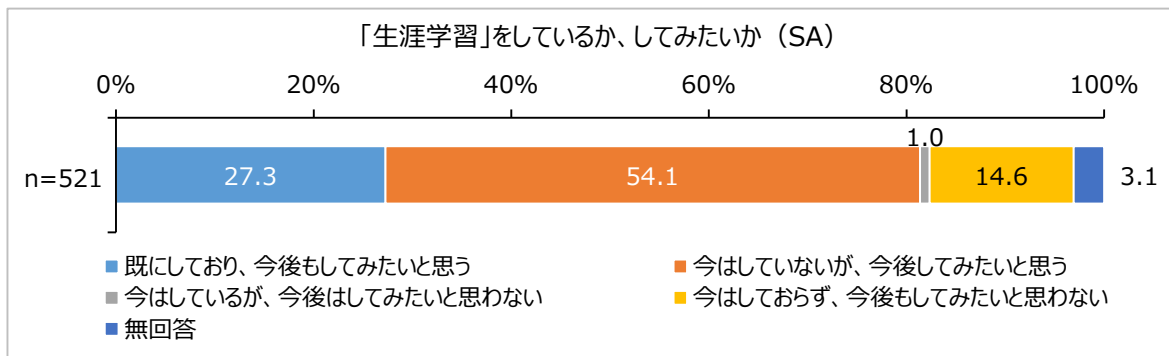
この人生 100 年時代をより豊かに生きるためには、生涯の様々なステージで必要となる資質・能力を身につけ発揮することが重要になります。これまでに学習した知識や技能が次の学習や日常生活につながり活用できた経験は、驚きや喜びだけではなく次の学びへの活力にもなります。

人生100年時代を見据えた生涯学習では、身につけた知識・技能等を家庭や地域、余暇や仕事の場面で活用し、その経験をさらに次の学びに生かす生涯学習の形が求められます。

またスポーツは心身の健康を増進するばかりでなく、人と人とを結ぶ架け橋となり、豊かで健全なコミュニティの創造にもつながります。人生 100 年時代のライフステージに応じたスポーツへの参加機会を増やしていくことが求められています。

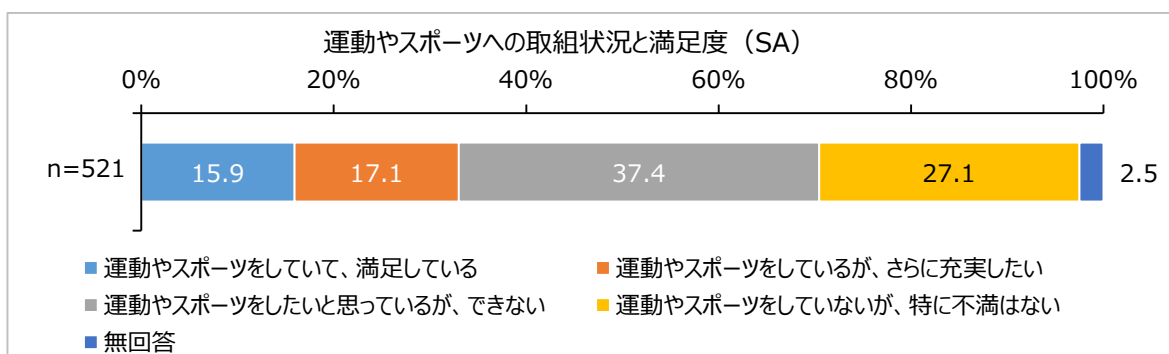
本市における生涯学習の取組状況は「今はしていないが、今後してみたいと思う」人が約 5 割半で最も多く、運動やスポーツへの取組状況では「運動やスポーツをしたいと思っているが、できない」「運動やスポーツをしていないが、特に不満はない」を合わせた“総じて運動やスポーツをしていない”人の割合が約 6 割半と高くなっています。

### ■中央市における「生涯学習」の取組状況



出典：中央市の教育に関するアンケート(令和元年 9 月)

### ■中央市における運動やスポーツへの取組状況



出典：中央市の教育に関するアンケート(令和元年 9 月)

## (6) インフラ整備の進展

### ①情報通信技術の進展

21世紀の社会は知識基盤社会であり、新しい知識・情報・技術が、社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増しています。近年、顕著となってきているのは、知識・情報・技術をめぐる変化が加速し、情報化やグローバル化といった社会変化が、人間の予測を超えて進展するようになってきていることです。

技術革新により開発が進んだAIが様々な判断を行ったり、身近なモノの働きがインターネット経由で最適化されたりする超スマート社会（Society5.0）の到来が、社会や生活を大きく変えていくと予測されています。「AIが人間の仕事を奪う」といった未来予測も発表されています。

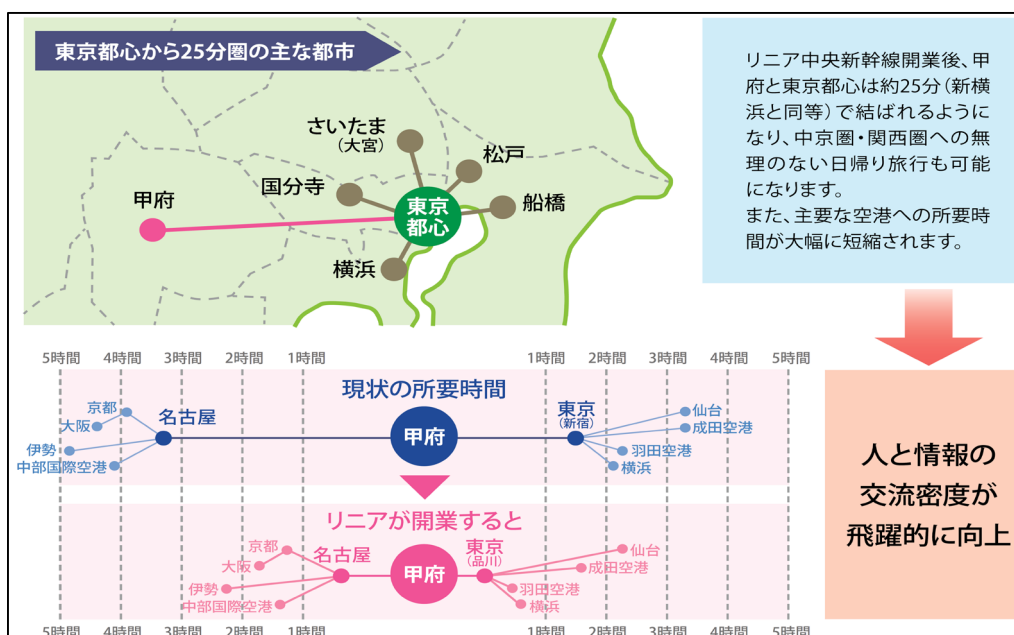
こうした超スマート社会を豊かに生き抜いていくためには、最先端の情報技術を生み出し、それを実践的に活用することができる人材や、現場レベルの改善・革新をけん引し、高付加価値のサービスを生み出すことができる能力が必要となります。

### ②交通インフラ整備の進展（リニア中央新幹線の整備）

令和9年には、リニア中央新幹線（東京・名古屋間）の開業による本市近隣への駅の設置が予定されています。開業後には、国内外との交流の拡大や、豊かな自然環境を活かした福祉・医療産業の展開など、新たな産業の創出が期待されるほか、研究開発者が集まる研究・交流拠点となる可能性も秘めており、県内産業が飛躍的に発展することが期待されています。

近隣にリニア駅の設置が予定されている本市においては、こうした産業や交流の拠点を最大限に活用していくことが重要であり、そのための人材を育成していくことが求められます。

#### ■リニア中央新幹線開業による所要時間



出典:「ダイナミック山梨総合計画」(山梨県)



## (7) 教育政策の変化

### ①「新学習指導要領」への対応

「新学習指導要領」が令和2年度から小学校から順次全面実施となり、子どもたちが未来の社会を切り拓くための資質・能力を確実に育成するため、英語の教科化及びプログラミング学習が必修化されます。また、深刻ないじめ問題、コミュニケーションツールの利用にかかる問題、地域や家庭の教育力の低下による問題などから、道徳が「特別の教科道徳」として先行して教科化されています。

「新学習指導要領」では、これからの教育課程の理念を、「『よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る』という目標を学校と社会とが共有し、それぞれの学校において、必要な教育内容をどのように学び、どのような資質・能力を身につけられるようにするのかを明確にしながら、社会との連携・協働によりその実現を図っていく。」としており、学校と地域の連携・協働が重要視され、“学校を核とした地域力の強化”が求められています。

### ②国・県の教育振興基本計画

国では、平成30年6月に新しい教育振興基本計画を閣議決定し、令和10年以降の社会を展望した教育政策の重点事項として、教育を通じて生涯にわたる一人ひとりの「可能性」と「チャンス」を最大化することを今後の教育政策の中心に据えて取り組むこととしています。また、経済的な理由や家庭の状況により、家庭での学習が困難である等、学習が遅れがちな児童生徒等に対して地域住民等の協力による学習支援の全国的な推進を図ることとしています。

県では、令和元年度から5年間の新たな教育振興基本計画のなかで、「学び続け 共に生き 未来を拓く やまなしの人づくり」を基本理念に、個人の学びの成果を教室や地域で活用し循環させていくという仕組みづくりを推進していくこととしています。

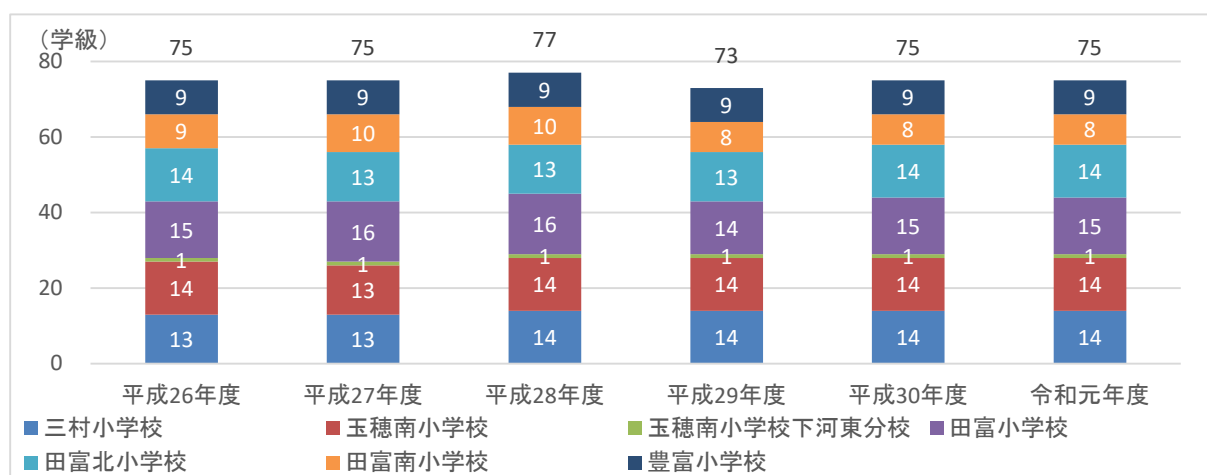
## 2. 本市の教育環境

### (1) 小学校

小学校は、山梨大学医学部附属病院内に併設されている玉穂南小学校下河東分校を含め7校あり、各小学校の学級数は子どもの数に応じて年度ごとに増減があります。

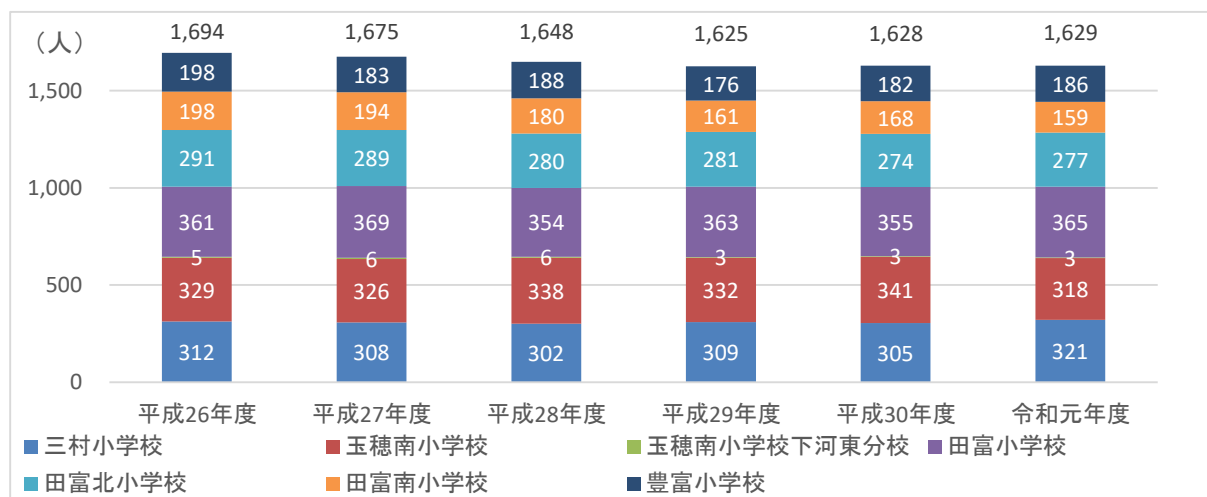
全体的に児童数は減少傾向にあり、平成26年度は1,694人でしたが、令和元年度には1,629人となり約70人減少しています。一方、特別な支援を必要とする児童数は年々増加しています。

#### ■学級数



出典：中央市教育委員会教育総務課(各年度5月1日現在)

#### ■児童数



出典：中央市教育委員会教育総務課(各年度5月1日現在)

#### ■特別支援学級の状況

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
設置校数(校)	6	6	6	6	6	6
学級数(級)	11	10	13	12	12	13
児童数(人)	25	26	35	36	42	49

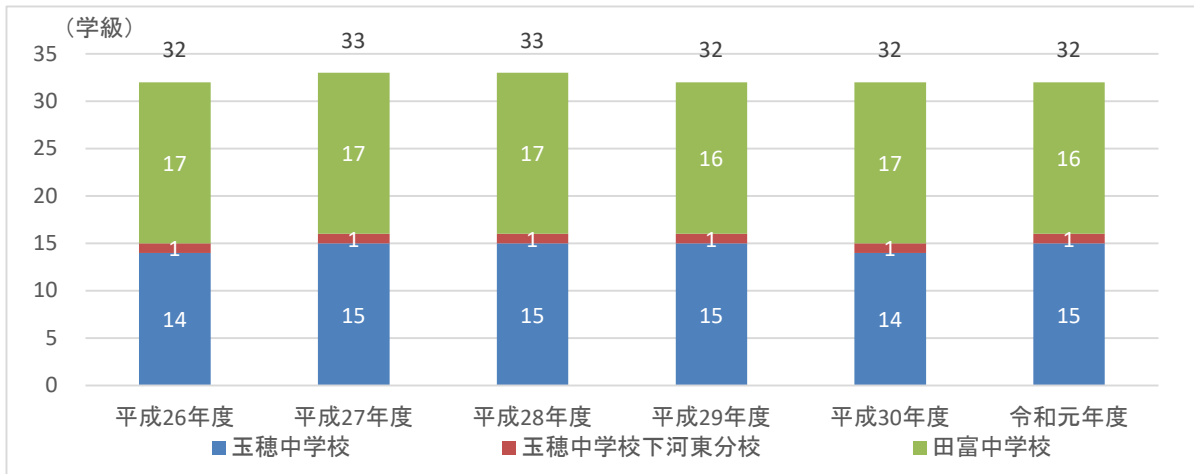
出典：中央市教育委員会教育総務課(各年度5月1日現在)

## (2) 中学校

中学校は、山梨大学医学部附属病院内に併設されている玉穂中学校下河東分校を含め3校あり、各中学校の学級数は子どもの数に応じて年度ごとに増減があります。

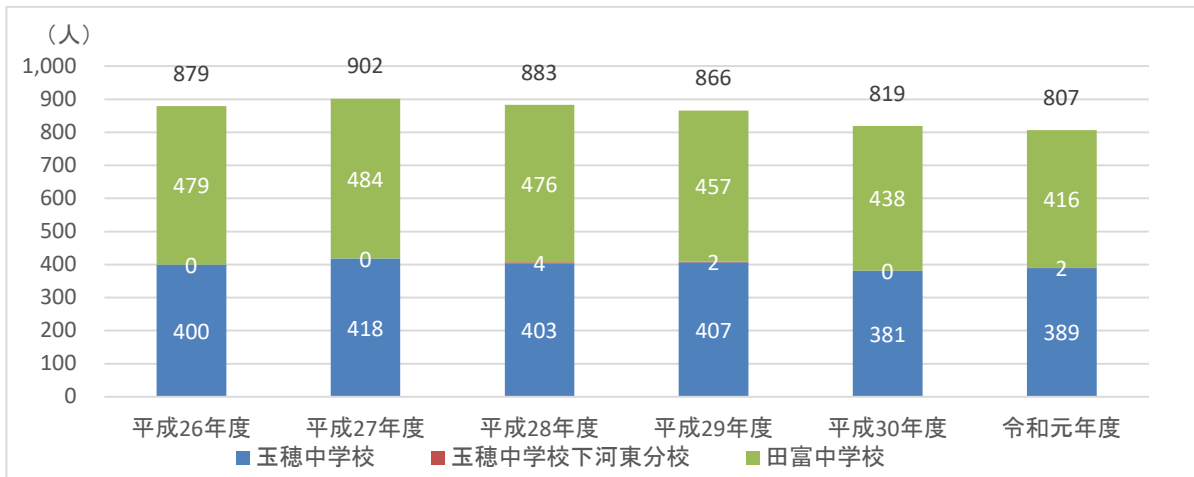
全体的に生徒数は減少傾向にあり、ここ6年間で平成27年度は902人で最多でしたが、令和元年度には807人となり約100人減少しています。一方、特別な支援を必要とする生徒数は年々増加しています。

### ■学級数



出典：中央市教育委員会教育総務課(各年度5月1日現在)

### ■生徒数



出典：中央市教育委員会教育総務課(各年度5月1日現在)

### ■特別支援学級の状況

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
設置校数(校)	2	2	2	2	2	2
学級数(級)	4	4	4	4	5	6
生徒数(人)	11	14	13	17	19	28

出典：中央市教育委員会教育総務課(各年度5月1日現在)

### (3) 社会教育施設

市内には、社会教育施設として、図書館（生涯学習館含む）が3施設と、豊富郷土資料館、豊富中央公民館が設置されています。

#### ① 図書館

施設名	玉穂生涯学習館	田富図書館	豊富図書館
施設内容	ロビー、開架コーナー、AVコーナー、地域資料室、対面朗読室、閉架書庫、第一研修室、第二研修室、読書室、視聴覚ホール 等	開架コーナー、ブラウジングコーナー、AVコーナー、地域資料室、視聴覚室、展示ギャラリー、閉架書庫、対面朗読室 等	開架コーナー
延べ床面積（㎡）	2,223	1,167	80
蔵書点数（点）	152,618	140,191	25,790
貸出数（点）	200,405	143,508	10,211
利用者数（人）	36,090	28,321	1,729

※平成30年度実績

#### ② その他

施設名	豊富郷土資料館	豊富中央公民館
施設内容	展示室4か所、展示コーナー、ハイビジョンシアター	第一会議室、第二会議室、第三会議室、多目的ホール、研修室1、研修室2

#### (4) 生涯スポーツ施設

市内には、生涯スポーツ施設として、体育館、プール、弓道場、テニスコート、多目的広場などが設置されています。なお、一部施設については、施設の老朽化により閉館・閉鎖が決まっています。

施設名	施設内容
田富市民体育館 ※	アリーナ (946.00 m <sup>2</sup> ) (バレー・バドミントン・卓球・バウンドテニス)、事務室、更衣室、用具室、会議室
田富市民プール ※	大人用プール (25m・7コース) 子ども用プール (10×5m)
玉穂B&G海洋センター	大人用プール (25m・6コース) 幼児・低学年用プール
与一弓道場	弓道 (10人立)
浅利弓道場	弓道 (5人立)
浅利テニスコート	オムニコート2面
農業者トレーニングセンター	第一アリーナ (600.00 m <sup>2</sup> ) (バレー・バドミントン・フットサル) 第二アリーナ (108.00 m <sup>2</sup> ) (剣道・柔道)
玉穂ふるさとふれあい広場	多目的広場 (11,500.00 m <sup>2</sup> ) (ソフトボール・野球・サッカー・グラウンドゴルフ・テニスコート・ゲートボール場)
豊富農村広場	多目的広場 (7,950.00 m <sup>2</sup> ) (ソフトボール・野球・グラウンドゴルフ・ゲートボール)
農村公園	人工芝グラウンド (9,774.00 m <sup>2</sup> ) (サッカー・グラウンドゴルフ)

※令和2年度閉館予定